

平成30年度 行政評価シート

施設名	旭川市博物館	所在地	旭川市神楽3条7丁目大雪クリスタルホール内		
担当部局	社会教育部 旭川市博物館	電話番号	69-2004	内線	

1 施設の概要

設置目的	旭川を中心とした主に北北海道の歴史・文化及び自然に関する各種資料を収集、保管、展示して市民の利用に供し、教養や調査研究を高めていくために必要な事業を行い、市民の教育、学術文化の発展向上に寄与するため。				
設置根拠	博物館法				
設置年月日	平成5年9月1日	増改築	-		
建設費(単位:千円)	(新築時)	8,178,663	(増改築時)	-	
規模・構造等	敷地面積 40,282.12㎡(大雪クリスタルホールを含む)、延床面積 9,698.78㎡(大雪クリスタルホールを含む) 鉄筋コンクリート造				
利用対象者	市民				
事業内容	各種資料の収集及び保管、調査研究活動、展示・講演会・講座等の教育普及活動、市内外の博物館園の他、高等専門学校・大学及び研究機関との連携事業、博物館施設の運営・観覧に関すること				
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営	(平成30年度の職員体制) 正職員 7人、臨時職員 2人、嘱託職員 1人			
	<input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部業務委託)	(委託内容) アイヌ文化の森 伝承のコタン(嵐山)チセ等保存管理、常設展示保守点検			
料金制度	<input checked="" type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> その他()				
減免制度	高齢者(旭川市民70歳以上)、障害者及び介助者、教員及び団体引率者、ボランティア、その他				
類似施設 (民間の施設を含む)	旭川兵村記念館、川村カ子トアイヌ記念館、北鎮記念館				
類似施設との違い	当博物館は総合博物館であり、多様な分野を扱っているが、類似施設は個別分野を扱っている。				

2 管理運営の状況

(1) 管理経費

(単位:千円)

年度		H27年度 (決算)	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (予算)	備考
内訳	人件費	56,772	56,681	57,059	56,483	
	正職員	51,037	49,945	50,379	51,247	
	臨時・嘱託職員	5,735	6,736	6,680	5,236	
需用費	燃料費	3,598	3,282	4,126	4,232	
	光熱水費	13,487	11,707	11,279	12,536	
	修繕料	0	193	0	0	
	消耗品費	174	220	180	124	展示室照明等
委託料	37,917	35,663	34,641	34,918		
保険料	8	66	66	67	博物館総合保険、建物総合損害共済保険(H28年度から)	
博物館協議会委員報酬	124	100	108	154		
特定化学物質等作業主任者技能講習受講料	12	12	12	12	資料受入の際の燻蒸に有資格者の立ち会いが必要	
合計(A)		112,092	107,924	107,471	108,526	
収入	使用料	2,601	3,088	3,551	2,950	
	行事負担金	16	16	15	36	
	合計(B)	2,617	3,104	3,566	2,986	
差引(合計(A)-合計(B))		109,475	104,820	103,905	105,540	

※人件費(正職員分)は、1人当たり平成27年度7,291千円、平成28年度7,135千円、平成29年度7,197千円、平成30年度7,321千円で計算すること。

(2) 利用状況

内訳	年度	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (見込み)	備考
総利用件数(単位:人)		23,219	24,511	27,999	30,000	
うち免除利用分		6,024	5,685	7,274	8,000	
うち減額利用分		137	259	546	600	
各室利用率 (単位:%)						
【参考値】 利用者一人当たりの 市費投入額(千円) (管理経費÷総利用件数)		5	4	4	4	

(3) 市民ニーズの把握

把握方法	■ アンケート調査(実施時期, 提出件数等)	平成21年度3学期より, 各学期毎に来館学校に対して実施。 平成29年度は94件。
	■ 意見箱の設置(設置数, 提出件数等)	各企画展毎に意見箱を設置。平成29年度の意見回収数は247件。
	■ その他の方法(実施時期, 方法等)	博物館協議会で協議会委員から意見を徴収。
主な意見と対応状況	主な意見	対応状況
	連続3日間開催する「ミュージアムカレッジキッズ版」という行事は小学校高学年向けだが, もう少し中学年向きにしてはどうか。	連続3日間開催していた行事を連続2日間にしてより参加しやすくし, 内容についても毎年度検討していく。
	小中学生のリピーター向けにスタンプカードを発行してみてもどうか。	平成29年度から, 主に小学生向けにスタンプカードを発行している。
	常設展示室地階のジオラマに, 山の名前などを書き加えたらわかりやすくなるので, そうして欲しい。	常設展示室のトータルデザインや雰囲気を変えないように検討を重ねながら, 順次行っている。
	SNSなどを活用したPR活動を積極的に行うべき。	旭川市のホームページとは別に, Facebookに旭川市博物館のアカウントを開設し, イベントなどのPR活動を随時行っている。

(4) サービス向上, 利用者増に向けた取組, 業務改善, 経費削減などの取組(業務委託は次項に記載)

取組内容	実績・成果
平成29年度から, 主に小学生向けにスタンプカードを発行し, リピーターの確保に努めた。	平成29年度中に100枚程度を発行
旭川市のホームページとは別に, Facebookに旭川市博物館のアカウントを開設し, イベントなどのPR活動を開始した。	企画展などの主要なイベント開催時期に合わせて更新を行っている。
退職校長会ボランティアの協力による博物館行事の開催	アイヌ文化に親しむ日や昔の道具ワークショップなど計4回
今後の予定	インバウンドに対応するため, キャプションの英語化と表示方法についての検討

(5) 業務委託の実績と予定

業務委託の実績	年度	内容
	H5~	常設展示保守点検
	H22~	アイヌ文化の森 伝承のコタン(嵐山)チセ等保存管理
今後の予定		

(6) 指定管理者制度の導入について

指定管理者の担い手	<input checked="" type="checkbox"/> 担い手になりうる団体がある <input type="checkbox"/> 市内 <input checked="" type="checkbox"/> 市内にはないが市外にはある				
	<input type="checkbox"/> 現時点では、担い手になりうる団体がない				
	説明	他都市で指定管理者制度を導入している施設では、その地域特有の歴史や文化を取り扱うという施設の性格上、多くが地元にある財団法人や非営利団体が指定管理を担っている。 また、特に道内で指定管理を導入している博物館では、入館料の収納や施設の維持管理などを指定管理者が担い、学芸業務(資料の調査・研究や企画展)は自治体職員が行っているのがほとんどである。			
メリットの比較	サービス向上	<input type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入	<input checked="" type="checkbox"/> 不明
	コスト削減	<input type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入	<input checked="" type="checkbox"/> 不明
	説明	指定管理者の担い手になる団体が市内にはないため一概には比較できないが、一般的には指定管理者制度に移行すれば同一コストでサービスが向上するとされている。しかし、必要以上にコストを削減することはサービスの低下を招くことにもなる。			
他市の導入状況	・道外の中核市の県立・市立博物館では57館中15館が指定管理者制度を導入している。 ・道内の道立・市立博物館では21館中4館が導入している。				

3 施設の課題

<p>常設展示については平成20年度に一部リニューアルされたが、くん蒸庫や照明などの設備関係は更新されておらず、老朽化が進んできている。特に照明設備は蛍光管の安定器の生産終了、ハロゲンライトの生産終了などが進んできており、LED化を含めた更新計画の検討が必要とされる。</p>
--

4 公共施設等総合管理計画(施設再編計画)における評価

B継続:複合施設	将来にわたり市が保有し続ける施設で、事業・設備の状況から、複合化の受け皿となるもの。
----------	--

5 評価

(1) 1次評価(所管部局)

活動量と成果	説明 ※活動量とは、利用件数や利用率、事業の実施件数など
<input checked="" type="checkbox"/> 高い	平成20年度の常設展示室一部リニューアル当初は、リニューアル効果や科学館との合同特別展開催の効果もあり、年間入館者数が3万人から4万人で推移したものの、平成24年度から平成26年度までは2万5千人から2万3千人台まで減少した。平成27年度からは地道なPR活動とインバウンド効果により入館者数も上昇に転じ、平成29年度は27,999人まで増加し、目標(推進計画の評価指標)の達成率は114.2%となった。
<input type="checkbox"/> やや高い	
<input type="checkbox"/> 予定どおり	
<input type="checkbox"/> やや低い	
<input type="checkbox"/> 低い	
運営の効率性	説明
<input checked="" type="checkbox"/> 高い	平成5年から複合施設として大雪クリスタルホール内にあり、建物の維持管理は文化振興課(大雪クリスタルホール担当)が行っている。また、常設展示室の保守点検、嵐山分館にあるチセ等の維持管理なども業務委託しており、管理経費の面での効率化は相当高い。
<input type="checkbox"/> やや高い	
<input type="checkbox"/> 標準	
<input type="checkbox"/> やや低い	
<input type="checkbox"/> 低い	
評価及び見直しの内容	
インバウンド需要の高まりの中、平成27年度から入館者数も順調に増加しており、今後も効率的に館を運営しつつ入館者数の増を目指す。	

(2) 外部評価(行財政改革推進委員会の意見)

評価及び見直しの内容
<p>アイヌ文化に注目が集まっており、関係事業や機関と協力・提携するとともに、チセの修理などはボランティアの活用を検討すること。 入館者は微増となっているが、SNSなどを利用した効果的な発信に努める必要があり、伝えたい相手に合わせて媒体を選択するとともに、発信頻度を高めること。 また、インバウンドへの対応が遅れており、対策を急ぐこと。 大雪クリスタルホールと一体で指定管理者制度の導入を検討すること。</p>

(3) 2次評価(行政評価検討会議)

評価及び見直しの内容
<p>アイヌ文化等を題材とした漫画の流行や国立アイヌ民族博物館の開館が予定されるなど、アイヌ文化への関心の高まりを受けて、関係機関や関連事業との連携・協力を積極的に進めるとともに、チセの修理などはボランティアの活用を検討すること。 また、インバウンドへの対応を急ぐほか、SNSなど媒体ごとの特徴を生かした効果的な情報発信に努めること。 大雪クリスタルホールと一体で指定管理者制度の導入を検討すること。</p>